

# 会 議 録

## 1 会議名

令和2年度 第3回金谷区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 令和2年度地域活動支援事業について（公開）
- (2) 第3期金谷区地域協議会の活動状況について（公開）
- (3) 自主的審議に関する提案について（公開）

## 3 開催日時

令和2年7月22日（水）午後6時00分から午後7時45分まで

## 4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

## 5 傍聴人の数

2人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・ 委 員：村田敏昭（会長）、川住健作（副会長）、石川美恵子、石野伸二、  
大瀧幸治、加藤國治、神崎 淑、小林雅史、高橋敏光、高橋 誠、  
高宮宏一、土屋博幸、平良木美佐江、山本一男
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、小池係長、田中主任

## 8 発言の内容

### 【田中主任】

- ・ 山井副会長、小堺委員を除く14人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は村田会長が務めることを報告

### 【村田会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 会議録の確認：高橋 誠委員、高橋敏光委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

・資料により説明

【村田会長】

事務局の説明について、質問のある委員の発言を求めるがなし。

—次第3報告（1）令和2年度地域活動支援事業について—

【村田会長】

次第3報告（1）令和2年度地域活動支援事業について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

・資料No.1により、令和2年度地域活動支援事業の採択結果について説明

【村田会長】

事務局の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【石野委員】

優先採択審査において、全提案事業に必ず1人が「該当しない」と判断している。優先採択審査の意味を理解していないのではないか。前期の審査ではこんなことはなかった。

【村田会長】

優先採択審査の視点について、事務局の説明を求める。

【堀川センター長】

「該当しない」の判断は、委員の皆さんの審査結果である。委員自身が優先採択審査とは何かを理解した上で審査しているのか、という意見に対しては、秋以降、来年度の審査方法について協議する機会があるので、その時に優先採択審査の視点についても協議し、再認識してもらうことでどうか。

【村田会長】

今後の会議の中で、理解を深める場を持ちたい。

この他に質問のある委員の発言を求めるがなし。

—次第3報告（2）第3期金谷区地域協議会の活動状況について—

【村田会長】

次第3報告（2）第3期金谷区地域協議会の活動状況について、事務局に説明を  
求める。

【堀川センター長】

・資料No.2により説明

【村田会長】

再任の委員からの補足説明及び質問のある委員の発言を求める。

【小林委員】

資料No.2の別紙2「地域課題として協議した主な事項（自主的審議事項以外）」の  
（ウ）雨水排水対策では、協議結果が「市が講じる対策について今後の推移を見守  
る」となっているが、その後進展はあったか。

また、先般中ノ俣でNPO法人が有償運送の事業を始めたという記事を目にした。  
エリアは違うが、まさに同資料の（オ）バス路線の再編のような話が具体化してい  
る例である。同じ金谷区として、そういった話を聞いたり、うまくいくようなら横  
展開した方がよい。

【石野委員】

（ウ）雨水排水対策の現状の欄に記載されている古川排水路については、現在市  
や県で工事を進める方向で話が進んでいる。地元の理解が得られて、負担金割合を  
受諾すれば、来年とはいかないが工事が始まると思う。ただ、その際、市の担当者  
から説明を受けた内容としては、中通町周辺の排水についてその時点では解決策が  
ないまま終わっているという状況であった。

【村田会長】

前期の会長であった高宮委員からは、（オ）バス路線の再編を率先して取りまと  
めてもらった経緯があるので、補足説明を求める。

【高宮委員】

正善寺線について、現状では最低限の乗客があるため、大きいバスから小さいバ  
スに変更して運行しており、まだ乗合タクシーには変わっていない。今は車の時代

なので、住民の皆さんは自家用車で病院や買い物等々済ませているようだ。時刻表を見ても分かるように減便されていることもあり、なかなか希望する時間に乗れないという問題がある。また、金谷区の城北中学校生は、部活動などで最終バス時刻に間に合わず、家族が送迎している状況である。飯から滝寺や下正善寺に入ると高齢化が進んで人口も減少しており、その辺をどうするかということが、今後の正善寺線バス利用促進協議会での話し合いになっていくと思う。いずれにしても、現状では正善寺線は、何とか最低乗車率を確保する方向で進んでいる。

**【石川委員】**

青田線や斐太線は大きいバスで1人か2人ぐらいの乗車率だったように記憶している。(オ) バス路線の再編の協議結果については、乗合タクシーへの変更がまだ具体的に決まっていないため、次期委員に自主的審議事項に取り上げるよう申し送るということになったと思うが、どのような経緯で申し送ることになったのか教えてほしい。

**【高宮委員】**

各路線の運行における他の路線との接点、例えば飯であれば、山麓線にバスが走っている。飯の交差点から正善寺方面へ行こうとする時の接点を設けたほうがよいということや、中央病院へ行くにも本町7丁目で降りて中央病院行きのバスに乗り継がなければならないという不便さがある。その辺を何とか一体化することにより、利用度が上がるのではないかと話をしているが、結論はまだ示されていない。

**【石川委員】**

何とか進展していかなくてはならないと思う。

**【堀川センター長】**

小林委員の質問はおそらく経緯が分からないというところから来ていると思う。そもそもは、正善寺線についてはバスから乗合タクシーに変えるという市の方針が出て、市が地元住民各戸に説明を行った。その結果は、地元住民の大体が仕方ないという反応であった。金谷区の地域協議会としては、市が地元住民から話を聞いたというが、地域協議会も同じように地元住民の声を聞こうではないかということで、令和元年11月27日に飯公民館で開催した出張協議会で近隣住民の生の声を聞くことにしたのが、この件の経緯である。そして石川委員の質問の次期委員への申

し送りとなった経緯については、出張協議会の時、地元住民からはバスがなくなる  
ことよりも、今後乗合タクシーがどうなるか不安に思っているとの意見があった。  
また、斐太線も含めて、今後市から運行ルートや料金等が示される段階が来たとき  
に地域協議会としても関わっていく必要があるということで、地域協議会として市  
から報告をもらうだけではなく、自主的審議事項として関心を持って取り組む必要  
があるとして、申し送り事項となった。

**【石野委員】**

第3期の自主的審議事項のうち、市に意見書を2件提出した。市から返ってくる  
回答は大体思ったとおりの、例えば予算がないとか、代替できるものがないといっ  
た内容で、私が受けた印象としては何か締め付けがある回答ばかりであった。今後  
審議をしていく上で、市からある程度の回答がもらえるような意見書を書いていか  
なくてはならないと思う。

**【土屋委員】**

(ウ) 雨水排水対策は、青木町内の排水路か用水路が直角に曲がっており、雨が  
降るといつもそこが溢れるという話が出たと記憶している。それは解決したのか。

**【石野委員】**

それが先ほど小林委員の質問に答えた古川排水路である。

**【高橋敏光委員】**

資料No.2の別紙1「第3期の自主的審議事項について」の(2)金谷地区公民館  
については、地域住民と話し合うという回答があったところまではよかったが、そ  
の後は市から話し合いについて一言もない状態である。同資料の(3)金谷区の観  
光・イベントについては、金谷区には観光資源がたくさんあるのに生かされていな  
いという課題から協議が始まった。昨年度、金谷地域歴史を守る会が地域活動支援  
事業を活用して「金谷地域歴史観光マップ」を作製し、結果として観光スポットに  
来る人は増えている。ただ、これだけで終わったのでは何にもならない。例えば歴  
史ある場所を巡るイベントなどを実施したいと思っている。ひとまず今年度中に1  
か所ぐらい、住民に声をかけてイベントを実施してみたい。

**【村田会長】**

他に意見や質問のある委員の発言を求めるがなし。

—次第4議題（1）自主的審議に係る提案について—

【村田会長】

次に、次第4議題（1）自主的審議に係る提案についてに入る。前回の会議で小林委員から自主的審議に係る提案が3件提出されたことを報告した。本日は小林委員から提案について説明を受け、意見交換を行いたい。

小林委員に自主的審議に係る提案内容の説明を求める。

【小林委員】

・資料No.3により「地域支援事業と楽器購入」について説明

【村田会長】

小林委員の説明について、質問及び意見のある委員の発言を求める。

【石野委員】

金谷区に一番関係する城西中学校は、通学区域が金谷区・和田区・三郷区・高田区の4区にまたがる。地域活動支援事業を活用する場合、どこの区に提案すればよいかということから始まり、提案があればなぜその区にだけ提案してきたのかという話になってくる。これについては地域活動支援事業のあり方が引っかかるのではないかと思う。また、小学校のブラスバンドは、結構いろいろな行事に参加して奉仕的な活動をしているのに対して、中学校の部活動はそういった奉仕的な活動の部分で行事への参加が非常に少ないというイメージがあり、地域活動支援事業でも遠ざけられているのではないか。これは金谷区だけの問題ではなく、地域活動支援事業全体の問題として捉えた方がよいと思う。

【小林委員】

地域間の格差を是正することが一番のポイントだと思う。例えば高田区で提案しても駄目だから金谷区に提案するという話もあり得るが、今意見があったとおりでなぜ金谷区なのかという話にもなる。地域自治区の中に中学校が一つしかない区であると、地域活動支援事業で購入している実績が割とあるようだ。私とすれば、市に意見を上げて一度判断を仰ぎたい。その上で、結果によっては2番目、3番目の何らかの手立てを講じるところまで、きちんと落としどころをつけていきたい。

**【石川委員】**

小林委員と全く同じ意見である。金谷区は飯小学校もあるので、城北中学校も通学区域であり、自分の子どもも吹奏楽部であった。吹奏楽部は大会に出るのに一生懸命で、地域貢献に関する活動をしているかと聞かれると返答に困るが、人間形成の面で部活動は他に代えがたいものがある。ふるさと納税での支援もいいと思う。地域活動支援事業での楽器の購入は、やはり区間での不公平感があるように思う。提案どおり、検討する機会を設けたらよい。部活動については一生懸命応援したい。

**【土屋委員】**

今まで楽器の購入はどうしていたのか。例えば保護者会で負担していたとか、各家庭で負担していたなど、その状況を教えてほしい。

**【小林委員】**

昨年まで子どもが城東中学校の吹奏楽部に所属していた。新しい楽器を購入したいが予算がなく、当然申請を上げるがなかなか予算がつかないようだ。過去の例だと、学校の周年記念行事といった大きなイベントでまとまった資金が調達できたときなどに、楽器を購入しているようである。現状では新しい楽器を購入するということはほとんどなく、足りない楽器を他の中学校から借りて大会に出たり、小物に関しては大体は個人負担である。昨年は、修繕だけでその年の予算を全て使い切るレベルであった。また、他の部活に比べて、保護者会費的なものも多少高い。市から「この予算で今年はこの楽器を購入していい」といった話は実際なかなかこないようだ。

**【村田会長】**

本日の会議では、3件の自主的審議に関する提案についての意見交換なので、意見があれば遠慮なく言ってほしい。意見は取りまとめた上で一度整理し、次回以降の会議で委員の皆さんに諮りたいと思う。

小林委員に次の自主的審議に係る提案内容の説明を求める。

**【小林委員】**

- ・資料No.3により「林道難波線 不法投棄物回収ボランティア」について説明

**【高橋敏光委員】**

この件に関しては、金谷地区振興協議会が中心となり活動している。今年で9年

目くらいになるかと思う。当初は参加者が少なく30人台だったが、年々参加者が増えて現在は約60人ほどのボランティアから来てもらっている。やはり皆さんの意識が向上したのではないかと思う。これが下がっていく状態になるのは少し怖い。今のところは地元を中心に大勢の人に来てもらっており、本当に助かっている。今年の春は市議会議員選挙もあり例年より少し早めに実施した。そんな中で、市の生活環境課と検討し、昨年ダミーカメラではあるが人感センサーで動くカメラをつけてもらったが、不法投棄に対して全く効果がなかった。一般家庭の不法投棄は少なくなってきたが、業者と思われる冷蔵庫やテレビ、大量のタイヤなどの不法投棄がひどい状況である。一番ひどいのは、業者がごみを引き取ってそのまま山へ持って行き捨てるケースである。自動販売機なども捨ててある。一般家庭にはかなり意識が行き届いてきたと思うが、山に行き捨てれば処分費用がかからず全部儲かるという気持ちで不法投棄している業者が本当に多い。そこで、ダミーカメラをつけてもらったが、カメラの向きを変えられたりして全く効果がなく、結局1年間で外してもらった。活動状況はそういった状況であり、今のところは何とか右肩上がりで参加してくれる人が増えている。参加者はやはり林道難波線の麓の人が多。金谷区は面積が広いので、なるべく広く来てもらうように活動していかなければならないと反省もしている。村田会長や川住副会長、小林委員や山本委員からも参加してもらっている。ただ、小学生には作業的に難しく、中学生・高校生になると大人との交流も少なく声をかけても集まらない。活動も長くなりだんだん広まってきたため、今はまだ困っていない状態である。

また、看板の取り付けについては、今もキャンプ場までの間に相当看板が立っているが、業者の不法投棄を防止するのはなかなか難しい。2、3トンといった大量の不法投棄であれば警察も動くそうだが、2、3キロの不法投棄では処罰できず、ポイ捨ての扱いで終わりのようである。投棄者が分かり捕まったケースもあったが、それも結局嚴重注意やごみの引き上げだけで終わった。不法投棄で逮捕されたり罰金を取られたりといったことはほとんどなく、その辺が難しいため、市の生活環境課ともいろいろ検討して取り組んでいる。金谷区の皆さんは他の地域と比べても一生懸命やってくれているので、本当に素晴らしい地域である。また、正善寺ダムの辺りも不法投棄ごみが多く、やはり地元の人が生懸命回収をしている。向橋から

塩荷谷に入る道路のごみは今は少なくなった。主に金谷山や南葉高原へ行く道路、それから正善寺ダム周辺の辺りが投棄されやすい場所かと思う。交通違反等と同じで、繰り返し繰り返し戦って活動を続けていくしかない。

#### 【石野委員】

林道難波線も正善寺ダムへの道路も、要は片側が崖になっているので投棄しやすい。林道難波線は特にそうだが、軽トラックの荷台からそのまま捨てていく。本来であれば「捨てられるから回収する」のではなく「捨てられないようにする」のが望ましいが、高橋委員の言うとおりになかなかいい策はない。ただ一つ言えることは、捨てられる場所をとにかく草を刈るなどして綺麗にすることである。綺麗にしていると心情的になかなか投棄しにくい。ただ、林道のような場所は崖になっているので、簡単に草刈等もできない。板挟み状態であり、根本的な方策はなかなか見つけられないのが実情だと思う。

#### 【平良木委員】

この問題については自分も大変心を痛めている。非常に重要な問題であるし、地域にとっても大事な話だと思う。ただ、子どもたちに呼びかけて解決しようという方向は少しどうかと思う。将来のことを考えてとは言えども、実際に捨てているのは子どもたちではない。また、学校それぞれの課題や子どもたちの思いがあるとともに、今は学校行事なども働き方改革でシンプルにする方向で進んできている。なので、こちらから学校に提案するより、子どもたちの方から総合学習の中でこういうことがしたいという思いが出たときに、地域で協力してはどうか。学校に対してこちらから強く提案するのはどうかと思う。

#### 【小林委員】

我々も年をとれば活動できなくなるので、こういった活動を続けるならば、将来を担う子どもたちや若い人たちにバトンを渡さなくてはいけない。その時に、子どもの頃に不法投棄のポスターを描いたとか、自分が描いたポスターが道に飾られたということが心に残ると思った。例えば、夏休みの課題や自由研究でポスターを描く課題を選択できるようにしたり、学校でコンテストなどをしてもいい。みんなで描いたポスターを寄せ集めて作品を作ってもいい。みんなで作ったものが形になって飾られる、これはすごく思い出になるのではないかな。別に押し付けるつもりはな

いので、委員の皆さんの意見で判断してもらえればと思う。

【石川委員】

今の若い人に罰が当たるということが通用するか分からないが、小さい鳥居を立てたら不法投棄が減ったという放送を見たことがある。事実、横畑線の途中でいつも不法投棄されていた場所があったが、そこに誰かが鳥居を立てたら本当に捨てられなくなった。その後、鳥居は取り払われたが、それ以来そこに不法投棄されているのを見たことがない。

【山本委員】

罰が当たるという話ではなく、それはもう親の教育である。

【石川委員】

親世代が捨てている。

【山本委員】

親の背中を見て子どもも捨てる。ボランティアで活動していくしかない。

【石野委員】

鳥居の話は自分もいろいろと聞いたことがある。国道だったと思うが、大型トラックが止められるスペースで運転手が立ち小便するというのが非常によくないということで、鳥居を何本も立てたら一切なくなったそうである。そういう事例も確かにあるが、不法投棄される場所が実際とても多いので、すべてできるかということなかなか難しい。

【神崎委員】

自分は地球環境学校に携わっており、主に小学生の総合学習について学校の先生と相談をしながらアクティビティーを組み立てるということをしている。その経験から、学校の先生はその地域にずっといるわけではないので、地域について知らないことが多い。総合的な学習の時間は、学習指導要領において児童が自発的に取り組むような内容が好ましいとされている。ただ実態としては、担任の先生がやりたいと思ったことを児童にもモチベーションを上げてもらってやっているという学校が多いように思う。そういった実態もあるので、学校の先生に金谷区では不法投棄されている場所がこんなにたくさんあって問題となっていることを知ってもらおうという意味で、学校に働きかけるのは有効な手段だと思う。

【小林委員】

数年前まで高田西小学校の学校運営協議会を務めていた。神崎委員が言うように先生方が「地域のことをいろいろと教えてほしい」「地域に関わらせてほしい」というスタンスの学校が多いのも事実である。地域の一員として、地域の課題解決の一役を担ったり、何か力になりたいという気持ちをもっている学校は多いのではないかと感じている。

【村田会長】

小林委員に次の自主的審議に係る提案内容の説明を求める。

【小林委員】

・資料No.3により「金谷区の防災機能強化（避難所・装備・運営・人材等）」について説明

【村田会長】

小林委員の説明について、質問及び意見のある委員の発言を求める。

【高宮委員】

実際のところは、各町内の町内会長と防災委員によく事情を聞くとよい。飯小学校では、7月28日に指定避難所の打合せがある。特に今回は新型コロナウイルスへの対応も初めて出てくる。打合せには、町内会長と防災委員が集まって、備蓄などいろいろなことを話し合うので、そういう会議に出てみると分かるのではないかと。町内会長に聞けばおそらくそれがきちんとできているのが分かると思う。打合せで話し合ったことを町内へ持ち帰り、町内の自主防災組織に何をしなくてはならないかという話もされている。上昭和町町の例だと、役員会を開催した際に役員に話している。町内会では、第1避難所、第2避難所があり、大体は町内会館が第1避難所になっていると思う。避難人数等々確認しながら第2避難所へとといった形で避難の経路を決めているので、ここにいる委員がもう少し各町内会長に聞いて学べばよい。

【小林委員】

私も地域の防災訓練には参加している。町内で防災訓練の流れが円滑に進んでいないとか、滞っているということは一切ない。ただ、いざというときに本当に動ける状態なのかという思いがある。設備面では去年の秋の台風の際に、千葉で1週間

以上停電が続いたとか、スマートフォンの充電すらできないといった状況が見受けられた。それも自助・自己防衛かもしれないが、私を感じたのは、各地域で中核となる避難所にはやはりある程度長期間にわたるバックアップの電源が必要だということである。なかなか予算がかかり難しいと思われる面をこういう場で議論をして足りていないもの、足りているもの、欲しいもの、今後こうあるべきということ、議論するきっかけになればと思い提案した。

#### 【高宮委員】

市の防災ガイドマップでは、最低でも3日分の食料と水を用意すべきとある。各家庭がそこまで災害に対する意識を持っているかどうか。そのため、私も町内でよく話すのは、市から全世帯に配布されているハザードマップで自分の住んでいる町内をよく見ているかどうかである。ハザードマップで自分の住んでいる地域の危険な箇所はどこにあるのかを確認できる。それを理解しているかどうか。防災ガイドマップやハザードマップなどを見て、金谷区において不足しているというものがあれば、こういうものを用意してほしいと市の担当者に言っているはずだ。防災訓練にも参加されているとのことなので、熟知してもらえればいいと思う。そして分からないことがあれば、防災委員や町内会長に聞いて用意していくということではないかと思う。先ほど小林委員が自助と言ったが、そのとおりだと思う。帰って町内会長によく聞いてみてほしい。

#### 【石野委員】

以前ダムの仕事をしたのでその防災訓練や町内会長として市の避難所絡みの案件にも携わったことがある。実際に防災訓練等をしたとしても、ただ集まって点呼をとったり、備蓄品がちゃんとあるか確認する程度である。実際に避難所を開設して寝るスペースや段ボールでできた簡易ベッドを設置したことはない。まして、通信的な訓練では、各機関にファックスを送って、電話して、ファックスが届いたというそれだけの訓練である。正善寺ダムの関係では、直接下流域の上正善寺、下正善寺、中正善寺に連絡が行くのではなく、市の防災関係の部署へ行って、そこから町内会長に行くなど複雑なルートをとっている。本当に緊急の場合にそれでいいのか、備品ばかりではなく避難所のインフラ的な部分がきちんとできるのかと実際に携わっていて思った。黒田小学校区の場合は小学校の体育館が避難所になってお

り、下水処理は全て電気でポンプアップしている。もし停電すると、ポンプアップができないため結局排水できない状況になるが、それだけの大きい発電機はない。そういったことも踏まえて、市からいろいろなことを聞いて、アクションを起こすことが必要だと思う。

#### 【石川委員】

今問題にしなくてはならないのは、防災訓練やそんな程度の話ではない。震度5や6くらいの地震であれば驚いて終わりだが、震度7以上の大きな地震が来たときにどうするか。まして今は新型コロナウイルスの影響もあるので、避難所の間仕切りは絶対に必要だと思う。そういったことや非常電源について検討すべきだと思う。普通の防災訓練で間に合うようなものは、防災意識の向上には効果があるかもしれない。ただ、実際は水が止まり、電気も止まる。そうなったら避難所に行かなくてはならない。それが一番問題で、段ボールベッドまではなくても間仕切りぐらいは各避難所で用意すべきと思う。

#### 【土屋委員】

昨年台風19号の時に河川が溢れそうだったので避難所に行ったら、ほかに避難していた人が5組ほどしかいなかった。避難とはこんな感じで大丈夫なのかと、実際に避難してみて身をもって感じた。翌日のニュースを見たら、長野でほとんどの人たちが安心して家に帰って被害に遭ったとか、こんなふうになると思わなかったという話であった。自分自身、大変だと思って避難所に行ってみたら、ほとんどの人が避難していないという現状を見て少し危機感を感じた。

#### 【平良木委員】

民生委員も務めているため、先ほど高田商業高校の避難所の説明会に参加してきた。昨年に比べて、新型コロナウイルス対策の詳細な計画が出来つつあったり、これまで名前がついているだけで別室が用意されていなかった福祉コーナーについても、体調不良者のための別室が用意されており、市も一生懸命市も考えていることが分かった。ただし、まだ備品が少ないなどの課題はある。一緒に参加した人がどう感じたか話し合ってみたいという感想をもった。また、自分は青木町内の担当もしており、そこはラーバンセンターが避難所になっている。ラーバンセンターは高田商業高校に比べて部屋数が多く、体育館に暖房も入るなど非常に条件がいいと

思った。避難場所によって、条件が違うということを感じた。地域の防災はとても大事なことで、避難所について知るということ、問題点を洗い出すことはとても大事だと思った。金谷区の避難所の実態をまず私たちが知って、共通の問題点や提案できることがあれば話し合っけて市に意見を上げていくのはどうか。

**【村田会長】**

小林委員は、いわゆる各町内でやっている防災訓練については理解をしていて、金谷区という一つの地区、4千600世帯、約1万5千人、そのレベルでの防災機能を強化していったらどうかという提案内容だと思う。大貫の4町内でも7月28日に関根学園高校で打合せが予定されている。ただそれは、金谷区全体についてではなく、大貫の4町内だけのことである。例えば地域協議会あるいは金谷地区振興協議会が一つの誘導係になって、金谷区全域をそういう形で見たらどうかという提案と理解したが、どうか。

**【小林委員】**

正直ペーパー上や防災訓練レベルであれば、かなり多くの方が自分たちの町内を知っているつもりになっていると思う。実際動いた時どうかである。各避難所の装備品などは市も当然まとめているはずなので、例えば実際に物を確認する中で皆さんからアイデアをもらうなどしてはどうか。大風呂敷を広げても、できることとできないことがある。金谷区のいくつかある避難所の小さな一つの単位でも構わないので、「自分たちはここが不安だからこういうことを突き詰めてみたい」という地域があれば金谷区として応援して、それを地域の財産として生かせるようであれば横展開していくのはどうか。軌道に乗れば他の地域でも実践できるよういい例が生まれればよい。そのために、まずは現状の認識と不安な点について地域協議会で意見を深めることができると考えている。

**【高橋敏光委員】**

市と県、国の考え方自体も全然違っており、平成16年の阪神淡路大震災を基に考えている。市は全体の2割が避難するという想定でいるが、その地域で見れば100パーセントの場合もあるだろう。その辺を市は考えていない。また、3日分の食料を持ち出すというのも絶対に無理である。私も実際に入れて持ってみたが、重くて持てない。ペットボトルを2～3本入れただけで重い。缶詰なども決して軽く

ない。それを1人3日分持って避難しろと言われても持っていけない。突然大きな地震が発生したら家が潰れるかもしれないし、逆に外へ出た方が危険な場合もある。なかなか難しい問題で、ここで話し合っても結果は出ない。金谷区だけで考える問題でもない。防災訓練は実施の有無やどういった方法で実施したかの報告のみで終わっている。実施内容についても市から全く指導されておらず、各町内で考えて実施している。防災面においては市の考えは少し甘いと思う。

**【村田会長】**

本日委員の皆さんから出された意見を取りまとめ、3件の提案について一度整理し、正副会長で協議した上で次回以降の会議で諮り自主的審議事項への道筋をつけていきたい。

自主的審議に関する進め方についてを諮り、委員の了承を得る。

—次第5 事務連絡—

**【村田会長】**

次第5 事務連絡について、事務局に説明を求める。

**【堀川センター長】**

- ・今後の日程：第4回地域協議会 8月26日（水）午後6時から 福祉交流プラザ  
第5回地域協議会 9月7日（月）午後6時から 福祉交流プラザ

- ・当日配布資料

令和2年度地域活動支援事業（金谷区）主な活動等予定表〔7月、8月、9月〕

主要事業・プロジェクトの概要

令和2年度上越市「地域の宝」認定制度

ウィズじょうえつからのおたより

**【村田会長】**

事務局からの説明について、質問のある委員の発言を求めるがなし。

地域活動支援事業の追加募集の日程を今一度確認したい。

**【田中主任】**

- ・募集期間は8月3日（月）から21日（金）までの19日間

- ・提案書の受付は8月3日（月）から南部まちづくりセンターで行う
- ・追加募集については、7月25日発行の金谷区地域協議会だよりで周知

【高橋敏光委員】

追加募集の審査・採択の日程は決まっているか。

【田中主任】

9月7日（月）に開催の第5回地域協議会で審査・採択を行う予定としている。

【土屋委員】

9月の会議は7日のみで、定例の会議は開催しないのか。

【堀川センター長】

現時点では未定である。案件の有無により開催について検討する。

【村田会長】

すべての議案は終了した。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。